

## 【レポート】

# 飼料原料の動向について

飼料生産部飼料調達課 山下 京子

## ■米国産トウモロコシの状況

### 「178.4ブッシェル／エーカー」

上記は8月10日に米国農務省が発表した今年度クロップの単収予想の数字であるが、過去最高の単収をたたき出した。南米や豪州、欧州は異常気象の影響か、穀物の作柄が悪いなか、米国産トウモロコシの作柄は恐ろしいほど順調である。適度な降雨と気温で、クロップの背丈は2mを超え、早いところでイヤーはデントステージまで進捗している。8月14日現在のクロッププロGRESSも「優 (Excellent)」と「良 (Good)」の比率が70% (前年62%) と過去最高単収の昨年よりも

良い数値で推移しており、今年もほぼ豊作で間違いな  
いだろう。

しかしながら、安心することはまだ早い。ここで注意する点がひとつある。それは期末在庫率である。**資料1**を見ていただきたい。単収はここ3年で「右肩上がり」であるが、期末在庫率は「右肩下がり」なのである。作付面積が減少していることも要因のひとつではあるが、一番の要因は需要の増加である。米国内のエタノール需要および輸出需要が堅調に推移している。上述のとおり、南米は天候不順の影響で生産量が減少し米国と比べて価格競争力がなく、例年であれば日本向けに秋頃から冬にかけてブラジル産トウモロコ

■資料1 米国トウモロコシ2018年8月需給報告 (8/10米国農務省)

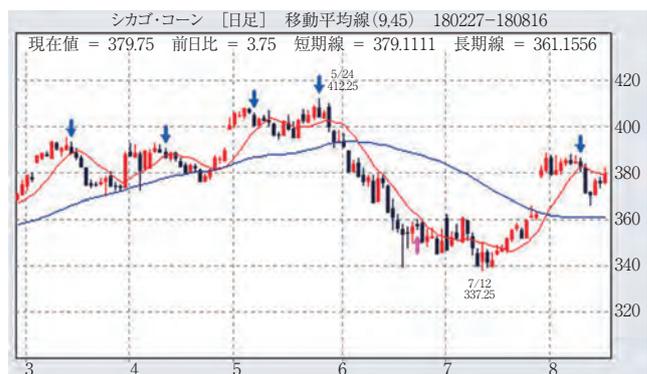
米国CORN	13/14年	14/15年	15/16年	16/17年	17/18年			18/19年		
					7/12	8/10	前月比	7/12	8/10	前月比
作付面積 (百万エーカー)	95.40	90.60	88.00	94.00	90.20	90.20	0.00	89.10	89.10	0.00
収穫面積 (百万エーカー)	87.50	83.10	80.80	86.70	82.70	82.70	0.00	81.80	81.80	0.00
単収 (Bu/エーカー)	158.10	171.00	168.40	<b>174.60</b>	176.60	<b>176.60</b>	0.00	174.00	<b>178.40</b>	4.40
期首在庫 (百万Bu)	821	1,232	1,731	1,737	2,293	2,293	0	2,027	2,027	0
生産量	13,829	14,216	13,602	15,148	14,604	14,604	0	14,230	14,586	356
輸入	36	32	67	57	40	40	0	50	50	0
供給合計	14,685	15,481	15,399	16,942	16,937	16,937	0	16,307	16,664	357
飼料用その他	5,034	5,324	5,123	5,472	5,450	5,450	0	5,425	5,525	100
食品/種子/工業 (内エタノール)	6,503	6,560	6,643	6,883	7,060	7,060	0	7,105	7,105	0
国内需要	5,134	5,200	5,224	5,432	5,600	5,600	0	5,625	5,625	0
輸出	11,537	11,883	11,766	12,356	12,510	12,510	0	12,530	12,630	100
輸 出	1,917	1,864	1,898	2,293	2,400	2,400	0	2,225	2,350	125
需要合計	13,454	13,748	13,665	14,649	14,910	14,910	0	14,755	14,980	225
期末在庫	1,232	1,733	1,734	2,293	2,027	2,027	0	1,552	1,684	132
在庫率 (%)	9.16	12.61	12.69	<b>15.65</b>	13.59	<b>13.59</b>	0.00	10.52	<b>11.24</b>	0.72

シの輸出があるのだが、今年は全くと言って良いほど無い。つまり、世界のトウモロコシ需要が米国産に集中し期末在庫率を押し下げている。

次に、天候相場真ただ中の6月から8月中旬現在のシカゴ定期の動きを解説したい。

右図の通り、5月末から7月中旬にかけてシカゴ定期が約70セント下落しているのがわかるが、天候相場でここまで下落することは珍しい。例年であれば、作柄がほぼ確定する8月後半以降から下落するのだが、早い段階で下落し、そして8月には約40セントも値を戻している。この上昇の主な要因は小麦の作柄悪化懸念や大豆の需要回復の期待感につられての上昇であ

る。豊作はほぼ間違いないので上値は重いものの、他の穀物の動きに連動しているため先が読みにくく、購買担当の頭を悩ませている。



## ■米国産大豆の状況

大豆も今年度クロープの予想単収は51.6ブッシェル／エーカーと過去2番目の高単収となっているが、それは米国の天候が順調であることが大きく寄与している。さらに注目する点は期末在庫率で18.44%と今までにないくらい高い水準となっている。

次に大豆のシカゴ定期の解説である。トウモロコシと同様に、天候が良好なことから6月から7月中旬に

かけて約240セントも下落している。ここでもうひとつ、シカゴ定期を押し下げている要因は「米中貿易戦争」である。

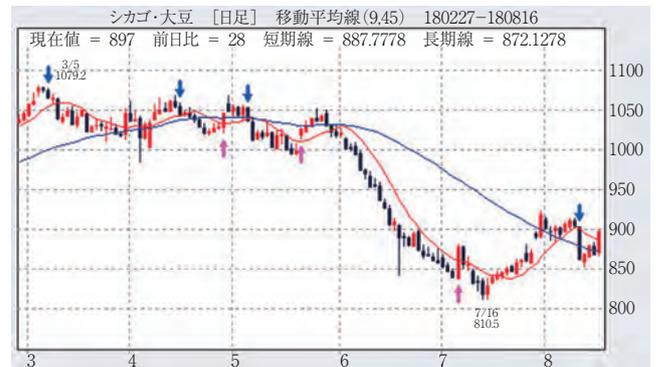
中国は米国トランプ大統領の中国産品の輸入制限政策に対する報復関税リストに大豆を入れた。米国大豆輸出シェア60%を占める最大輸出国だった中国が他産地へ需要をシフトせざるを得なくなり、シカゴ定期は下落した。しかしながら、中国は年間輸入大豆数量の3割以上を米国に依存し、残りはブラジル産大豆を輸

■資料2 米国大豆2018年8月需給報告（8/10米国農務省）

米国大豆	13/14年	14/15年	15/16年	16/17年	17/18年			18/19年		
					7/12	8/10	前月比	7/12	8/10	前月比
作付面積（百万エーカー）	76.80	83.30	82.70	83.40	90.10	90.10	0.00	89.60	89.60	0.00
収穫面積（百万エーカー）	76.30	82.60	81.70	82.70	89.50	89.50	0.00	88.90	88.90	0.00
単収（Bu/エーカー）	44.00	47.50	48.00	52.00	49.10	49.10	0.00	48.50	<b>51.60</b>	3.10
期首在庫（百万Bu）	141	92	191	197	302	302	0	465	430	-35
生産量	3,358	3,927	3,926	4,296	4,392	4,392	0	4,310	4,586	276
輸入	72	33	24	22	22	22	0	25	25	0
供給合計	3,571	4,051	4,141	4,515	4,715	4,715	0	4,800	5,040	240
搾油用	1,734	1,873	1,886	1,901	2,030	2,040	10	2,045	2,060	15
輸出	1,647	1,843	1,936	2,174	2,085	2,110	25	2,040	2,060	20
種子・飼料用	97	96	97	105	104	104	0	103	103	0
その他	0	49	25	34	32	32	0	32	33	1
需要合計	3,478	3,861	3,945	4,213	4,251	4,286	35	4,220	4,256	36
期末在庫	94	190	197	302	465	430	-35	580	785	205
在庫率（%）	2.70	4.92	4.99	7.17	10.94	10.03	-0.91	13.74	<b>18.44</b>	4.70

入しているが、ブラジルの全生産量で中国の需要を賅いきれない。つまり諸刃の剣なのである。

右図では7月31日や8月16日のシカゴ定期は約30セント値を戻しているが、米中が両国の貿易問題について解決に向けた話し合いが行われるとのニュースを受けたもので、米国産大豆の需要が回復する期待感による上昇だった。



米国中西部のトウモロコシ・大豆農家は白人であり、そのほとんどはトランプ大統領支持者であるが、トランプ大統領の政策のおかげで農家たちは苦しんでいるのも事実である。米中貿易戦争は両国の我慢比べとなっており、いつ解決するかは誰もわからない。解決の仕方によっては相場も大きく変動する可能性がある。

注：本稿は、2018年8月17日時点の相場状況に基づいています。



 雪印種苗株式会社

編集発行人  
高橋 厚三

本社004-8531  
札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号  
TEL (011)891-5911